

(2000円)



昭和47年11月28日

特許庁長官 三宅 幸夫 殿

1. 発明の名称

冷凍焼鳥の製造法

2. 発明者

埼玉県川越市大字寺尾369 小菅住宅
北 村 青 夫

ほか2名

3. 特許出願人

郵便番号 105

東京都中央区日本橋小網町1丁目2番地

日清製鉄株式会社

代表者 正 田 英 三 郎

4. 代理人

郵便番号 105

東京都港区芝罘平町10番地 虎ノ門田島ビル

(6825) 清水 猛

明 細 書

1. 発明の名称

冷凍焼鳥の製造法

2. 特許請求の範囲

家畜家禽の内臓または肉を加熱処理して、これをアスコルビン酸、エリソルビン酸あるいはそれらのナトリウム塩の水溶液に浸漬した後凍結することを特徴とする冷凍焼鳥の製造法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、解凍することなくそのまま軽く焼き上げるだけで食用できるようにした冷凍焼鳥の製造法に関するものである。

冷凍焼鳥は近年開発されてきたが、満足できる品質のものは得られていない。その理由としては、生のまま冷凍した冷凍焼鳥を解凍しないで焼く場合、表面から解凍するために表面だけ焦げて、内部はまだ生であるという現象が起き、内部まで火が通るようにすると、表面の焦げがひどくなり食味を劣化する。さらに冷凍焼鳥は冷凍中に脂

①9 日本国特許庁

公開特許公報

①特開昭 49-75762

④3公開日 昭49.(1974)7.22

②1特願昭 47-118544

②2出願日 昭47.(1972)11.28

審査請求 未請求 (全2頁)

庁内整理番号

⑤2日本分類

6971 49

34.F03

6971 49

34.F04

肪の酸化が起り不快臭を発生し、またこれを焼くときも独特の不快な臭気を発生すると共に味覚が劣化する。

本発明者は、上記冷凍焼鳥の欠点を改良するよう検討した結果、冷凍前に肉を加熱処理すること、さらに肉をアスコルビン酸、エリソルビン酸あるいはそれらのナトリウム塩の水溶液に浸漬することがよいことを知り、本発明をなすに至つたのである。すなわち、本発明は、家畜家禽の内臓または肉を加熱処理して、これをアスコルビン酸、エリソルビン酸あるいはそれらのナトリウム塩の水溶液に浸漬した後凍結することを特徴とする冷凍焼鳥の製造法である。

本発明において、家畜家禽の内臓または肉の加熱処理は、肉の内部温度が75℃以上になるように加熱する。これは肉の腐敗を起す微生物の殺菌を行うに必要な温度であり、かつこの加熱によつて蛋白質の熱変成を行い、解凍しないで焼き上げる際に良好結果を与えるのである。加熱方法としては

、熱湯浸漬、煮熱、蒸熱、電子レンジ加熱が採用できるが、直火による加熱は肉を固くし、風味を劣化するのでさける必要がある。

本発明において、家畜家禽の内臓または肉をアスコルビン酸、エリソルビン酸あるいはそれらのナトリウム塩の水溶液に浸漬することによつて、脂肪の酸化を防止するのであるが、前記酸化防止剤は、単なる抗酸化剤としての効果だけではなく、品質の劣化防止特に風味の保持および変色防止に著しい効果を示すことが判明したのである。これは他の酸化防止剤、たとえばジブチルヒドロキソトルエン、ブチルヒドロキシアニソール、没食子酸イソアミル、ビタミンEなどでは望みえないのである。

焼鳥においてはタレが必要な調味剤であるが、本発明においては、凍結前にタレを付着させておくことも可能である。すなわち、加熱処理した肉をタレに浸漬して付着させ、あるいはアスコルビン酸、エリソルビン酸あるいはそれらのナトリウ

ム塩をタレに溶解しておき、これに浸漬してもよい。

上記本発明による冷飯焼鳥は、解凍することなくそのまま軽く焼くだけで食用に供することができ、短時間で新鮮な焼鳥製品が得られる。

以下本発明の実施例を挙げて説明する。

実施例 1

200gの大きさの鶏肉を串にさし、セロリ20g、パセリ10gを入れた80℃の湯バスに5~10分浸漬して加熱処理した後、冷却して0.5%アスコルビン酸を含む液に浸漬し、次いで-20℃の冷凍庫に入れて冷凍する。

3ヶ月間冷凍貯蔵したものを解凍することなくタレを付着させ、約7分間直火で焼いて食用に供したところ、風味は極めて良好であつた。

実施例 2

豚の腸を適宜大きさに切断して串にさし、約5分間蒸熱した後、タレを充分付着させたものを0.5%エリソルビン酸を含む液に浸漬し、次いで-20

℃の冷凍庫に入れて冷凍する。

実施例 3

実施例1にしたがつて加熱処理した串肉を、0.5%アスコルビン酸を添加したタレに浸漬した後、-20℃の冷凍庫に入れて冷凍する。

5. 添附書類の目録

(1) 願 書 副 本	1 通
(2) 明 細 書	1 通
(3) 委 任 状	1 通

6. 前記以外の発明者

東京都荒川区尾久 3-11-22

木 村 久 子

東京都板橋区大谷口北町 44-2

倉 本 友 子

代理人 弁理士 清水 猛